

事例13

< 事例概要 >

- ・ 80歳代、歯性下顎蜂巣炎のため歯科治療中の患者。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。
- ・ 原因薬剤は、 β -ラクタム系抗菌薬（セフトリアキソン）。診療所で発症。
- ・ 過去に薬剤を使用し、アレルギー症状の出現無。
- ・ 抗菌薬の点滴を開始した5分後、「苦しい」と訴え、薬剤投与を中止し医師へ連絡。初発症状を認めた直後、チアノーゼ、喘鳴を認め、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）60%台。薬剤準備中に、頸動脈触知不能となり心肺蘇生を開始。点滴の針が自然抜去していたため、アドレナリン1 mgを筋肉内注射し、救急要請。4分後、心停止となり2回目のアドレナリン1 mgを筋肉内注射。13分後、救急搬送し救急処置を実施するが、翌日に死亡。